

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871100263
法人名	社会福祉法人北条福祉協会
事業所名	グループホームなぎさ
所在地	松山市北条辻1170番地22
自己評価作成日	平成28年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 11月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設13年目を迎え、理念である地域との交流は地域と情報交換をすることでスムーズに地域行事への参加ができています。地域の絵画愛好者の絵画教室に月2回地域交流室を開放している。絵画愛好者から利用者の似顔絵を描いていただくなど温かい交流をしている。おしゃや生け花ボランティアに来ていただき、また違った癒しの時間が持てるようにしている。瀬戸内の海を臨む静かな環境のもと、職員は利用者がそれぞれの役割を持った生活が毎日継続できるよう支援をし、かつ毎日のリハビリを積み重ねることで、利用者の残存能力の維持に努めている。また、法人内の特養2施設と年間行事を通じて、利用者や職員の相互交流をし、物心両面で協力関係を維持している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は海辺に建つ平屋造りの日本家屋で、周辺に学習塾や商業施設等の店舗や消防署がある。開設より14年目を迎え、当初より掲げてきた理念である「地域との交流」を大切に実践し、地域行事への参加や近隣介護保険事業所が行う行事への参加、ボランティアや保育園児の来訪による交流、事業所で盛大に行われる芋炊き会等、様々な社会参加や交流の機会がある。また、地域交流スペースを絵画教室に解放しており、地域貢献の一助としている。職員は利用者の笑顔を仕事のやりがいに、心がけて声かけを行い、利用者がゆったりと好きなことをして過ごせるよう支援している。利用者は自立した生活が送れるよう熱心にリハビリに取り組み、歩行訓練やレクリエーション等、楽しみながら活動的に過ごしている。研修や資格取得を奨励し、職員が研鑽を積みながらサービスの質の向上を目指している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームなぎさ

(ユニット名) せとユニット

記入者(管理者)

氏名 梶山 洋三

評価完了日

平成 28 年 10 月 28 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 施設の運営理念をユニット食堂、ユニット玄関に掲示し、職員が目が届くようにすることで、常に理念を意識し、実践できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 「地域との交流、穏やかな環境、安全安心の確保」という理念を継承し、地域とのつきあいを大切にして実践している。管理者はゆったりとした時間の中で利用者が好きなことをして過ごして欲しいと考えており、職員もイライラすることなく穏やかに接するよう指導している。理念は利用者が自筆で書いたものを含め、玄関やユニットに掲示して周知している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地区の亥の子や祭り等に参加したり、事業所主催の芋炊き会等には地域の方にも参加していただき、積極的に交流をしている。</p> <p>(外部評価) 事業所では開設当初より近所付き合いを大切にしており、町内会に加入して総会等にも参加している。回覧板を通して地域行事の情報を得、七夕祭りや秋祭り等に積極的に参加している。毎年事業所で行われる芋炊き会には100名余りの参加者があり盛大に行われているほか、隣接する他事業所の行事にも参加して交流している。また、多くのボランティアが定期的に訪れたり、保育園児の訪問もあって利用者に喜ばれている。事業所の一角に地域交流スペースがあって絵画教室が開催されており、利用者の似顔絵を描いてくれることがある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の学生の福祉体験学習を受入れ、認知症の利用者への理解を深めていただくようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議では地域の方から積極的に意見が出ており、サービスの向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、利用者や家族、区長、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、利用者の状況や活動報告のほか、災害時避難訓練の報告を行っている。参加者からは、訓練実施状況への助言や協力の申し出等の意見が出ており、運営に生かされている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 北条サービス調整会議や北条地域密着型サービス事業所連絡会、北条介護支援専門員連絡会に参加し、情報交換を行い、サービスの向上に繋げている。</p> <p>(外部評価) 市担当課職員や地域包括支援センター職員は、運営推進会議に参加して事業所の状況を把握し、情報の提供や助言を行っている。また、職員は地域包括支援センターが開催する研修会や連絡会に参加して、他事業所と情報交換を行うなどの交流がある。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 職員会や勉強会等を通して、知識や情報を共有し、実践に繋げている。身体拘束の理解を深め、身体拘束のない安全で快適な生活ができるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 年1回法人内研修のテーマとして取り上げ、職員全員が学ぶ機会がある。日中玄関は常時開放されており、利用者は自由に入ることができる。退院直後で転倒の危険が予測される利用者には、センサーマットや鈴を活用して安全の確保に努めている。管理者は言葉遣いにも留意するよう指導しており、利用者を急かすような声かけをする場合は職員にその都度注意を促している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を通して理解を深め、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度や権利擁護事業等をテーマに勉強会を行い、職員の意識付けを行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に重要事項説明を十分に行い、本人や家族に納得して貰った上で契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や家族会の開催時や家族が参加するイベントの開催時に意向を聞き、運営に反映させている。	
			(外部評価) 年1回、年度末に家族会を開催して、1年の活動報告や介護保険制度の説明を行い、要望を述べてもらったり、運営推進会議で意見等を聞く機会がある。また、芋炊き会やクリスマス会、忘年会で家族と交流しながら信頼関係を深めるよう努めている。職員は、家族面会時に声をかけて日頃の様子を伝え、意見や要望を聞くようにしている。意見や苦情があった場合は職員で話し合い、対応策を家族に返すと共に掲示して公表している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 意見箱を設置したり、日々の業務の中で意見を聞く機会を設け、運営に反映している。 (外部評価) 職員は、毎月行われるユニット会で意見や提案を述べることでできおり、幅広い年齢層の職員が良好なチームワークを構築している。管理者は職員の頑張りを評価して、待遇に反映できるよう努めている。事業所では研修や資格取得を奨励しており、研修助成や手当支給の制度があり、職員は意欲的に資格取得に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者が状態把握をする為、頻繁に現場に来ている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員会の勉強会や月1回の勉強会で介護技術や知識の習得に努めている。年に4回、外部の作業療法士を講師にむかえ、リハビリ研修を実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者が各種会議に参加し、ネットワーク作りに役立っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居事前調査を行い、本人の状態把握に努め、本人の意向を確認しながら、信頼関係を築くように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居事前調査を行い、家族の意向等を聞き、問題解決に向けてお互いに協力出来るよう、関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要な支援を見極め、その時々に応じた対応が出来るように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人が安全に安心して生活を送ることが出来るよう、回想法を利用しながら、本人との信頼関係を深めるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人と家族との関係が円滑に続くように配慮し、一緒に支えていけるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの場所へ外出する機会を設け、知人に合うことにより以前の生活を回想出来たり、写真を事業所内に掲示することにより、掲示物を見ることで何度でも回想できるようにしている。	
			(外部評価) 日常の会話の中から利用者の馴染みの人や場所について把握するよう努め、ドライブに出かけた際に以前の職場や自宅近くを通過して懐かしんでもらっている。また、祭りや寺社の参拝等地域の行事に積極的に参加することで、知人と出会う機会となっている。他事業所が行う餅つき大会や盆踊り大会等の行事に参加することで、新たな馴染みの関係も生まれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションや行事、外出等を通して一緒に過せる時間を持つことで、お互いが支えられる関係を築けるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者が退所後も行事等に案内し、職員や利用者との関わりが続けられることを大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中での関わりを通じ、食事や行事に対する意見や希望を聞くことで、利用者本位のケアの実現に向けて職員間で話し合う機会を持っている。 (外部評価) ユニット毎に利用者懇談会を開催して利用者の思いを聞く機会を設けているが、日常の会話や関わりの中で利用者が考えることや、どのようにして暮らしたいかという想いを聞き取ることが多い。思いや意向を伝え難い利用者は、家族と相談したり、表情や行動から汲みとり把握するよう努めている。また、愛媛マラソンに出る孫の応援をしたいという希望を聞いて、沿道に応援に出かけて喜ばれるなど希望の実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から生活歴や馴染みの暮らし方等を聞き取り、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人の馴染みの方や物、場所等を把握し、外出時に回想出来るように支援を行っている。また、心身状態や生活のリズムを把握し、その日の流れの中で出来ることや役割を支援し、現状把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) カンファレンスに家族の参加をお願いし、本人・家族の意見や希望を聞き、介護計画を作成しており、参加できない場合は、事前に家族の意見を聞き取り、ケアプランに活かしている。 (外部評価) 計画作成担当者が家族の意見や要望を踏まえて介護計画を作成し、毎月開催されるユニット会で話し合っ検討している。職員は介護計画を念頭においてケアを行い、タブレットで入力して法人内共通のパソコンで情報管理を行っている。担当職員は1か月に1回気づきノートを活用してモニタリング表を作成している。変化があればその都度、ない場合は6か月ごとに見直しを行い、家族面会時に説明して同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別チェック表等の記録を作成し、介護計画に活かしている。気づきノートを作成し、小さな情報でも職員間で共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況により、外出や外泊等柔軟に対応出来るようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に民生委員や地区代表、行政職員等の参加を得、情報交換や協力関係を強化するように努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人・家族の希望を取り入れ、主治医と相談しながら、場合によ っては協力病院等で適切な医療が受けられるようにしてい る。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診することができ、 家族が付き添って受診する場合は連絡票を作成して主治医に渡 し、指示内容を共有している。家族付き添いが困難な場合は職 員が付き添っている。毎日協力医の往診があるほか、職員とし て看護師が配置されており、24時間体制で緊急時対応を行 い、利用者や家族は安心して適正な医療を受けることができ ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師を配置し、24時間体制で介護職と連携を取り、健康管理 や医療支援を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力医療機関と情報交換をしながら、早期退院が出来るよう、 支援に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合には事業所で支援出来る範囲を説明し、今後の 方針等について家族等と話し合いを持ち、対応している。ケー スによっては特養等への申込み等の支援を行っている。 (外部評価) 事業所では「看取りに関する指針」を作成し、本人や家族の希 望があれば看取りを行う方針で、今までに看取りを行った経験 がある。入居時に利用者と家族に終末期ケアについて意向確認 を行い、事業所が対応可能な内容について説明しており、重度 化した場合は医師を交えて話し合いながら支援している。家族 の希望があれば寝具等を用意して、協力をしながら共に支援に 取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護師と24時間連絡が取れる体制にあり、急変時には直ぐに指示が受けられる。また、勉強会等において対応や知識の習得に努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域住民の協力を得て消防訓練等を年3回実施しており、職員の防災意識の向上に努めている。 (外部評価) 年2回消防署立ち合いのもとで日中・夜間想定で避難訓練を実施しているほか、津波を想定した自主訓練を実施している。訓練には家族や地域住民も参加しており、改善点を運営推進会議で話し合っている。地区と災害時相互協定を締結して協力体制を築いている。管理者は、勤務調整を行なって全職員が訓練体験ができるよう考慮している。備蓄品は法人内他事業所に保管して備えている。	事業所は海岸沿いに立地しているため、津波災害は切実な課題になっており、自主的に避難訓練を積み重ねてきている。バス移動で遠隔地にある法人の他事業所へ避難を行う訓練を実施しているが、訓練内容について消防署から助言を得てさらに充実した内容になることを期待したい。また、備蓄品については、事業所内に保管管理する方法について検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人情報の取扱いについて十分に注意しており、勉強会等を通して利用者の立場に立った介護を身につけるように努力している。 (外部評価) 管理者は、利用者を自分や家族に置き換えて考えるよう指導しており、職員は利用者を人生の先輩であるという認識を持って誇りやプライバシーを損なわないよう努めている。特に言葉遣いへの配慮を怠らないよう注意しており、呼称については名前にさん付けで呼ぶことを基本としている。利用者の状態に応じて反応の良い呼称を用いる場合もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活において、利用者が自己決定し易いよう、利用者との関わりを密にし、希望を聞いたり選択肢を増やすように心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の体調面や精神面を考慮しながら、出来る限り本人の希望に添うよう、その人らしい生活が実現出来るように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者本人に衣服を選んで貰う等しながら、その人らしいお洒落が出来るよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の状態に合わせて調理の下準備や食器拭き等を職員と一緒にやるようにしている。また、利用者に献立を読んでもらうなど食事に楽しみが持てるよう支援している。 (外部評価) 法人の管理栄養士が献立を立て、一括して食材を購入して各ユニット毎で調理をしている。利用者は調理の様子を見たり、適宜野菜の下ごしらえや食器拭き等できることを手伝っている。利用者の嚥下状態に合わせて食事形態の工夫を行っており、費用が生じる場合は家族とも相談して補助食品を使用している。正月やクリスマス会、芋炊き会では特別メニューの料理を楽しむことができる。	以前は事業所で献立を立て、買い物にも行っていたが、現在は法人で献立が決められているため、利用者の要望に応じてメニューを変更することが困難になっている。誕生会等特別な日に、以前のように利用者の要望に応じて料理を作ることができないか、法人内で協議する機会を持ち、工夫されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士の作成する献立によりカロリーや栄養のバランスを確保している。利用者の状況に合わせて、キザミやミキサーにかけ等、食事形態に配慮すると共に、食事量や水分量を記録し、不足と思える時は嗜好等を考慮しながら代替品により不足を補うようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、歯磨きや舌の手入れを行っており、状態に合わせてマウススポンジ等を使用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェックを行うことで利用者の排泄パターンを把握し、出来るだけトイレを使用するよう支援を行っている。	
			(外部評価) 日中夜間共にできるだけトイレで排泄できるよう支援している。2部屋で共有するトイレ設備があり、利用者は容易にトイレ移動ができる。夜間帯は安全のためポータブルトイレを使用する利用者もあり、その都度排泄介助を行っている。下肢筋力の低下を防ぐため、医師の指示のもと、階段昇降や2ユニットの長い廊下を歩く等、熱心にリハビリに取り組んでおり、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事摂取及び排便のチェックを行い、便秘の状況を把握すると共に、日中はリハビリや散歩にて身体を動かしたり、入浴時に腹部マッサージをすることにより、便秘の改善に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 浴室は個室となっており、一人ひとりとコミュニケーションを取りながらゆったりと入浴出来るよう心掛け、楽しみの時間となるように支援している。	
			(外部評価) 週3回を基本に入浴することができる。立位が困難な利用者用にリフトが設置されており、全員が湯に浸かれるよう介助している。脱衣室には暖房器具を置いて急な温度差がないよう配慮されている。現在入浴が苦手な利用者はいないが、職員は利用者が入浴を楽しめるよう、入浴剤を使用して気分を変えたり、ゆっくりと会話を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活習慣を把握し、臥床時間も本人の希望に合せ、体調も考慮しながら、ゆっくり休めるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを作成することで、職員一人ひとりが理解すると共に、誤薬防止の為に職員2人で確認を行ない、薬の空き袋も数日間保管することで事故防止に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の生活歴や得意分野を把握し、本人の能力を活かした役割を持って貰うことで、生き甲斐のある生活が出来るように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望を聞きながら、出来るだけ偏りなく外出する機会が持てるようにしており、場合によっては家族の協力が得られるように支援している。 (外部評価) 天気の良い日は、中庭に出て日光浴をしたり、隣接する事業所の広い敷地を散歩している。事業所では利用者が外出する機会をなるべく多く持ってほしいと考え、年間計画を立てて月2回程度福祉用車両に乗ってドライブに出かけている。季節の花見、道の駅での買い物、コンサートや文化祭にも出かけており、楽しみの行事となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持つことの大切さを理解し、買い物時には本人に支払って頂くことで、社会性の維持に努めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が公衆電話を自由に使えるようにしており、必要に応じてかけられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には以前から使っていた馴染みの物を置いたり、共有空間には季節感が味わえる物を飾ったりし、心地よく過せるように工夫している。 (外部評価) 共用空間は天井が高く広々としていて、大きな窓から日差しが差し込み明るく暖かい。オープンキッチンのあるリビングは、椅子席とソファ席が設けられており、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。掃き出し窓からスロープを通過して中庭に出ることができ、小さな菜園があって野菜を収穫する楽しみがある。壁に掛けられている油絵は、地域交流スペースで行われている絵画教室で描かれた作品で存在感がある。ユニットの中央に行事写真が掲載されており、利用者が廊下を通る際には思い出せるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 居間にソファを置くことでゆったりと過せる空間を作り、利用者同士が楽しく会話出来るように工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人や家族に意見を聞きながら、居室に馴染みの物を置いたり、家族等の写真を飾る等し、落ち着いた雰囲気生活出来るように支援している。 (外部評価) 居室は床暖房設備が整備され、エアコンと介護用ベッド、洗面台、クローゼットが備えつけられており、2部屋で共有するトイレが設置されている。利用者は自宅から机や椅子、テレビ等を持ち込み、家族の写真や花を飾って居心地よく過ごせるよう工夫している。ベッドの位置や方向も利用者ごとに異なり、明るい日差しが差し込む窓辺にリクライニングチェアを置いている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の持てる能力に合せ、その力を活用し自立した生活が続けられるように支援している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871100263
法人名	社会福祉法人北条福祉協会
事業所名	グループホームなぎさ
所在地	松山市北条辻1170番地22
自己評価作成日	平成28年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 11月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設13年目を迎え、理念である地域との交流は地域と情報交換をすることでスムーズに地域行事への参加ができています。地域の絵画愛好者の絵画教室に月2回地域交流室を開放している。絵画愛好者から利用者の似顔絵を描いていただくなど温かい交流をしている。お話や生け花ボランティアに来ていただき、また違った癒しの時間が持てるようにしている。瀬戸内の海を臨む静かな環境のもと、職員は利用者がそれぞれの役割を持った生活が毎日継続できるよう支援をし、かつ毎日のリハビリを積み重ねることで、利用者の残存能力の維持に努めている。また、法人内の特養2施設と年間行事を通じて、利用者や職員の相互交流をし、物心両面で協力関係を維持している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は海辺に建つ平屋造りの日本家屋で、周辺に学習塾や商業施設等の店舗や消防署がある。開設より14年目を迎え、当初より掲げてきた理念である「地域との交流」を大切に実践し、地域行事への参加や近隣介護保険事業所が行う行事への参加、ボランティアや保育園児の来訪による交流、事業所で盛大に行われる芋炊き会等、様々な社会参加や交流の機会がある。また、地域交流スペースを絵画教室に解放しており、地域貢献の一助としている。職員は利用者の笑顔を仕事のやりがいに、心がけて声かけを行い、利用者がゆったりと好きなことをして過ごせるよう支援している。利用者は自立した生活が送れるよう熱心にリハビリに取り組み、歩行訓練やレクリエーション等、楽しみながら活動的に過ごしている。研修や資格取得を奨励し、職員が研鑽を積みながらサービスの質の向上を目指している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームなぎさ

(ユニット名) たかなわユニット

記入者(管理者)

氏名 梶山 洋三

評価完了日 平成 28 年 10 月 28 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 管理者と職員が理念を共有し、日々実践に取り組んでいる。理念をユニット食堂に掲示したり、ユニット玄関に入居者直筆の理念を掲示し、地域の方や来所者にも分かり易くしている。運営推進会議やユニット会でも実践に繋げる話し合いをしたり、プランに反映させるようにしている。</p> <p>(外部評価) 「地域との交流、穏やかな環境、安全安心の確保」という理念を継承し、地域とのつきあいを大切にして実践している。管理者はゆったりとした時間の中で利用者が好きなことをして過ごして欲しいと考えており、職員もイライラすることなく穏やかに接するよう指導している。理念は利用者が自筆で書いたものを含め、玄関やユニットに掲示して周知している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会に加入し、回覧板や区長等から情報を集め、新年会や七夕、秋祭り等の地域の行事に利用者や職員が参加している。事業所主催の芋炊き会には地域住民の参加者が増えている。南町愛護班との交流会への参加や保育園児の訪問、中学生の体験学習等の受け入れを行い、積極的に交流を図っている。</p> <p>(外部評価) 事業所では開設当初より近所付き合いを大切にしており、町内会に加入して総会等にも参加している。回覧板を通して地域行事の情報を得、七夕祭りや秋祭り等に積極的に参加している。毎年事業所で行われる芋炊き会には100名余りの参加者があり盛大に行われているほか、隣接する他事業所の行事にも参加して交流している。また、多くのボランティアが定期的に訪れたり、保育園児の訪問もあって利用者に喜ばれている。事業所の一角に地域交流スペースがあって絵画教室が開催されており、利用者の似顔絵を描いてくれることがある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の学生の福祉体験学習を受入れ、認知症の利用者への理解を深めていただくようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議には利用者や家族、地域住民代表、市職員等の参加を得、2ヶ月毎に開催している。事業所の現状や取組みを報告し、参加者からの意見や要望をサービス向上に活かしている。特に地域住民から具体的で有意義な意見が出ている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議は、利用者や家族、区長、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、利用者の状況や活動報告のほか、災害時避難訓練の報告を行っている。参加者からは、訓練実施状況への助言や協力の申し出等の意見が出ており、運営に生かされている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>市の担当課には運営推進会議で事業所の現状を報告し、情報や助言をもらい連携している。また、地域包括支援センター主催の北条サービス調整会議(毎月)や北条地域密着型サービス事業所連絡会(年4回)、北条介護支援専門員連絡会(年4回)参加し、情報交換を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>市担当課職員や地域包括支援センター職員は、運営推進会議に参加して事業所の状況を把握し、情報の提供や助言を行っている。また、職員は地域包括支援センターが開催する研修会や連絡会に参加して、他事業所と情報交換を行うなどの交流がある。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>身体拘束について勉強会を行い、身体拘束の内容や弊害を認識し、玄関を施錠しない等身体拘束をしないで安全で自由な暮らしを支援するようなケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>年1回法人内研修のテーマとして取り上げ、職員全員が学ぶ機会がある。日中玄関は常時開放されており、利用者は自由に入出ることができる。退院直後で転倒の危険が予測される利用者には、センサーマットや鈴を活用して安全の確保に努めている。管理者は言葉遣いにも留意するよう指導しており、利用者を急かすような声かけをする場合は職員にその都度注意を促している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止について勉強会を行い、全職員が意識を持って防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修を行うことで、職員の意識付けを行い、必要な際には活用出来るように話し合っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には重要事項説明書や利用契約書について十分に説明した上で契約している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や運営推進会議等で利用者や家族の意見、要望、苦情を聞き、運営に活かしている。意見箱を設置しているが意見はない。家族が来所した際に利用者の状況を説明し、意見や要望を聞くようにしている。出された意見や要望等については、職員間で話し合い、運営に反映出来るように努めると共に、意見の内容や対応結果を掲示している。	
			(外部評価) 年1回、年度末に家族会を開催して、1年の活動報告や介護保険制度の説明を行い、要望を述べてもらったり、運営推進会議で意見等を聞く機会がある。また、芋炊き会やクリスマス会、忘年会で家族と交流しながら信頼関係を深めるよう努めている。職員は、家族面会時に声をかけて日頃の様子を伝え、意見や要望を聞くようにしている。意見や苦情があった場合は職員で話し合い、対応策を家族に返すと共に掲示して公表している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者は事業所に頻回に来所し、職員と接する機会を持つように努めている。また、代表者が職員会に出席し、職員からの提案や意見を述べる機会を持ち、運営に反映している。 (外部評価) 職員は、毎月行われるユニット会で意見や提案を述べることできており、幅広い年齢層の職員が良好なチームワークを構築している。管理者は職員の頑張りや評価して、待遇に反映できるよう努めている。事業所では研修や資格取得を奨励しており、研修助成や手当支給の制度があり、職員は意欲的に資格取得に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は頻回に現場へ来て、管理者を通して職員個々の状況を把握している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所外の研修に参加したり、事業所内で月2回程度の勉強会を実施し、3ヶ月に1回はOTを招いてリハビリ等の指導を仰ぎ、実践に繋げている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者が地域包括支援センター主催の北条サービス調整会議に参加し、ネットワーク作りや勉強会等を通じて、サービスの質の向上に努めている。又、研修会等で他施設の職員と意見交換を通じ、業務に役立てている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居事前調査にて本人の状態把握を行うと共に、本人の不安や希望を聞くことで、本人との信頼関係を築くことに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居事前調査で家族からの相談を真摯に受け止め、問題解決に向けてお互いに協力出来る関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人及び家族との話し合いを十分に取り、その時に応じた柔軟な対応を行うように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家事を手伝って貰ったり、昔の風習等を教えて貰う等、教え教えられ、支え合う生活の中から利用者個々をより深く知る努力をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の思いを受け止め、本人及び家族と情報交換しながら本人の生活を支援している。家族も協力的である。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族をはじめ、知人や友人の訪問があり、居室でくつろげるように配慮している。利用者のかつての住まいの近くへのドライブや集まりの場へ参加したり、自宅へ帰ったり、なじみの人や場所との関係継続を支援している。 (外部評価) 日常の会話の中から利用者の馴染みの人や場所について把握するよう努め、ドライブに出かけた際に以前の職場や自宅近くを通過して懐かしんでもらっている。また、祭りや寺社の参拝等地区の行事に積極的に参加することで、知人と出会う機会となっている。他事業所が行う餅つき大会や盆踊り大会等の行事に参加することで、新たな馴染みの関係も生まれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一緒に家事をしながらコミュニケーションを取ったり、利用者同士が助け合う部分に対しては安全を確保しながら見守っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同一法人施設への入所者に対し、行事等で会うことが多く、その都度話をしながら情報交換を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中での関わりを通じて、本人の意向や希望を聞いたり汲み取ったりしながら把握に努め、本人本位に活かしている。 (外部評価) ユニット毎に利用者懇談会を開催して利用者の思いを聞く機会を設けているが、日常の会話や関わりの中で利用者が考えていることや、どのようにして暮らしたいかという想いを聞き取ることが多い。思いや意向を伝え難い利用者は、家族と相談したり、表情や行動から汲みとり把握するよう努めている。また、愛媛マラソンに出る孫の応援をしたいという希望を聞いて、沿道に応援に出かけて喜ばれるなど希望の実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で寄り添い、情報を積み重ねている。また、家族からも随時情報を得るように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 心身の状態や生活のリズムを把握し、その日の流れの中で出来る事や役割を支援し、状況を把握している。また、先入観より決め付けしないで、出来る力を発見出来るように努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の要望を取り入れながら計画書を作成している。毎月モニタリングを行い、変化に対して本人や家族と相談しながら対応している。	
			(外部評価) 計画作成担当者が家族の意見や要望を踏まえて介護計画を作成し、毎月開催されるユニット会で話し合って検討している。職員は介護計画を念頭においてケアを行い、タブレットで入力して法人内共通のパソコンで情報管理を行っている。担当職員は1か月に1回気づきノートを活用してモニタリング表を作成している。変化があればその都度、ない場合は6か月ごとに見直しを行い、家族面会時に説明して同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別ファイルを作成し、記録を共有することで介護計画等に活かしている。随時職員間で気づきを話し合い、情報を常に共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況により、外出や外泊等柔軟に対応出来るよう支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のボランティアによる生け花や演芸、保育園児の来所等、利用者が楽しめる機会を設けている。また、外出の機会を持つことで、地域へ出かけることにも力を入れている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医に受診出来るよう支援し、 連携を持っている。受診は家族が同行し情報を共有している。事 業所には医師でもある代表者が頻回に来所し、利用者の状態を把 握しており、利用者や家族の安心感になっている。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診することができ、家 族が付き添って受診する場合は連絡票を作成して主治医に渡し、 指示内容を共有している。家族付き添いが困難な場合は職員が付 き添っている。毎日協力医の往診があるほか、職員として看護師 が配置されており、24時間体制で緊急時対応を行い、利用者や 家族は安心して適正な医療を受けることができている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職員を配置し、24時間常に看護職と介護職が連携を取れる体 制としており、利用者の健康管理や医療支援を行っている。ま た、看護職は介護職を兼務しており、日々の生活のケアを通して 一人一人を把握している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力医療機関と連携し、情報交換しながら早期退院に向けて相談 に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に事業所の方針を伝え、利用者や家族の意向に沿って安心 して終末期を迎えられるように、繰り返し意思を確認しながら取 り組んでいる。見取りの指針を作成し、職員は外部及び内部研修 を受講し体制を整えている。見取りを経験することで職員はケア の向上と達成感を得られている。 (外部評価) 事業所では「看取りに関する指針」を作成し、本人や家族の希望 があれば看取りを行う方針で、今までに看取りを行った経験があ る。入居時に利用者と家族に終末期ケアについて意向確認を行 い、事業所が対応可能な内容について説明しており、重度化した 場合は医師を交えて話し合いながら支援している。家族の希望が あれば寝具等を用意して、協力をしながら共に支援に取り組んで いる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護師とは24時間連携が取れる体制としており、急変時には直ぐ連絡・指示が受けられ、場合によっては事故発生時の対応が出来るように勉強会を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 緊急連絡網や訓練マニュアル、避難経路図を作成し、職員と利用者、地域住民も参加して夜間想定の実施すると共に、地区と災害時の相互協定を結んでいる。また、津波による避難訓練も実施しており、地域の方も一緒に訓練に参加して貰っている。訓練後には、反省や意見を頂き、次に繋げている。	
			(外部評価) 年2回消防署立ち合いのもとで日中・夜間想定で避難訓練を実施しているほか、津波を想定した自主訓練を実施している。訓練には家族や地域住民も参加しており、改善点を運営推進会議で話し合っている。地区と災害時相互協定を締結して協力体制を築いている。管理者は、勤務調整を行なって全職員が訓練体験ができるよう考慮している。備蓄品は法人内他事業所に保管して備えている。	事業所は海岸沿いに立地しているため、津波災害は切実な課題になっており、自主的に避難訓練を積み重ねてきている。バス移動で遠隔地にある法人の他事業所へ避難を行う訓練を実施しているが、訓練内容について消防署から助言を得てさらに充実した内容になることを期待したい。また、備蓄品については、事業所内に保管管理する方法について検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の立場に立ったケアをすることを最重点とし、個人情報の取扱については十分に注意している。利用者個々の人格を尊重し、対応や言葉遣いについて勉強会やユニット会で具体的に話し合っている。	
			(外部評価) 管理者は、利用者を自分や家族に置き換えて考えるよう指導しており、職員は利用者を人生の先輩であるという認識を持って誇りやプライバシーを損なわないよう努めている。特に言葉遣いへの配慮を怠らないよう注意しており、呼称については名前にさん付けで呼ぶことを基本としている。利用者の状態に応じて反応の良い呼称を用いる場合もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の希望を聞き、本人の選択肢を増やし、自己決定し易いように支援している。また、表情や反応にて相手の心理が把握出来るように普段から密に関わるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の状態を考慮しながら、本人の希望を取り入れ、本人のペースを大事にしながら個々に支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の好みや意向を尊重した服装や髪飾り等本人のこだわりが継続出来るように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 栄養士の立てた献立にて新鮮な食材を配達して貰い、職員が調理をしている。利用者の好みは日々の会話等から把握している。利用後も皮むき等の下ごしらえ、食器拭き等出来ることは一緒にするようにし、利用者に献立を読んで貰うことで話題作りを行い、食事が楽しくなっている。 (外部評価) 法人の管理栄養士が献立を立て、一括して食材を購入して各ユニット毎で調理をしている。利用者は調理の様子を見たり、適宜野菜の下ごしらえや食器拭き等できることを手伝っている。利用者の嚥下状態に合わせて食事形態の工夫を行っており、費用が生じる場合は家族とも相談して補助食品を使用している。正月やクリスマス会、芋炊き会では特別メニューの料理を楽しむことができる。	以前は事業所で献立を立て、買い物にも行っていたが、現在は法人で献立が決められているため、利用者の要望に応じてメニューを変更することが困難になっている。誕生会等特別な日に、以前のように利用者の要望に応じて料理を作ることができないか、法人内で協議する機会を持ち、工夫されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が栄養バランスやカロリー等確保出来る献立を作成すると共に、食事や水分摂取量を記録し、状態に応じた支援をしている。不足する場合は好みの物を用意し、補えるよう支援している。食事前の口腔体操をすることで食欲を高め、食事が楽しんで頂けるように食べやすい食器の工夫を行ったり、声掛けや環境整備をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後や就寝前の歯磨きや義歯の洗浄については、一人一人の能力に合わせて支援をしている。また、食前に口腔体操を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握して誘導し、自立に向けてトイレやポータブルトイレでの排泄を支援している。日中は全員トイレでの排泄にてパット汚染は軽減している。	
			(外部評価) 日中夜間共にできるだけトイレで排泄できるよう支援している。2部屋で共有するトイレ設備があり、利用者は容易にトイレ移動ができる。夜間帯は安全のためポータブルトイレを使用する利用者もおり、その都度排泄介助を行っている。下肢筋力の低下を防ぐため、医師の指示のもと、階段昇降や2ユニットの長い廊下を歩く等、熱心にリハビリに取り組んでおり、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表を活用し、毎日のリハビリや散歩を通じて身体を動かしたり、飲食物の工夫をしたり入浴時に腹部マッサージを行う等便秘予防に努めている。排便の情報を職員間で共有している。医師や看護師とも連携している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日は決めているが、時間については利用者個々の都合やタイミングで入浴を行っている。入浴剤を使用し、個浴することで一人ひとりとのコミュニケーションの場としても、ゆったりと時間を掛け楽しむようになるような支援を行っている。また、リフトを設置することで重度化にも対応出来るようになっている。	
			(外部評価) 週3回を基本に入浴することができる。立位が困難な利用者用にリフトが設置されており、全員が湯に浸かれるよう介助している。脱衣室には暖房器具を置いて急な温度差がないよう配慮されている。現在入浴が苦手な利用者はいないが、職員は利用者が入浴を楽しめるよう、入浴剤を使用して気分を変えたり、ゆっくりと会話を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣を大切にし、朝食時間をずらしたりしている。体調を考慮し、臥床を進める場合もあるが、日中は活動的に過ぎて頂き、夜間は安眠出来るように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを作成し、服薬について全職員が理解すると共に誤薬防止の為、二人の職員によるチェックを実施し、服薬後の薬袋は当日すぐに廃棄せず、保管している。また、排便チェック表を作成し、服薬状況や排便状況を把握し、医師や看護師への連絡に役立てている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴に応じて、得意分野を見つけ出し、それを活かしている。食器拭きや洗濯物たたみ、庭掃除、花への水やり、草引き等役割を持って頂き、楽しみや気分転換の支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの希望に合わせて家族の協力を得ながら近隣の洋服店や薬局へ買い物に出かけられるように支援している。また、年間行事計画を立てて、季節の花見や花火、ドライブ等を実施している。戸外へ出かけられるように日頃からリハビリにも力を入れて、体力づくりをしている。 (外部評価) 天気の良い日は、中庭に出て日光浴をしたり、隣接する事業所の広い敷地を散歩している。事業所では利用者が外出する機会をなるべく多く持つてほしいと考え、年間計画を立てて月2回程度福祉用車両に乗ってドライブに出かけている。季節の花見、道の駅での買い物、コンサートや文化祭にも出かけており、楽しみの行事となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 能力に応じて小銭程度を自己管理し、自由に電話を掛けている。預かり金については使途に関して家族と相談し、月1回確認を頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に添い、家族や知人へ本人から電話したり、手紙を出せるように支援している。また、届いた手紙については、能力に応じて関わるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用空間は広々として明るく、居間には人数分のソファや本箱、テレビ、季節の花等があり、ゆっくり寛ぐ事が出来る。窓からは季節ごとに花が咲いているのが見え、楽しんでいる、窓はカーテンで日差しを調節している。また、床暖房により適温が保たれ、心地良く過ごせるようにしている。	
			(外部評価) 共用空間は天井が高く広々としていて、大きな窓から日差しが差し込み明るく暖かい。オープンキッチンのあるリビングは、椅子席とソファ席が設けられており、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。掃き出し窓からスロープを通過して中庭に出ることができ、小さな菜園があつて野菜を収穫する楽しみがある。壁に掛けられている油絵は、地域交流スペースで行われている絵画教室で描かれた作品で存在感がある。ユニットの中央に行事写真が掲載されており、利用者が廊下を通る際見えては思い出せるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有空間を広く取ることで、一人ひとりがゆったり過ごしたり、利用者同士が会話出来る工夫をしている。また、居間と食堂を自由に行き来が出来、思い思いに自由に過ごせるように支援している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅から使い慣れた物や家族との思い出の物等を持ち込んだりして、家族との絆を大切にしながら、過ごせるように支援している。	
			(外部評価) 居室は床暖房設備が整備され、エアコンと介護用ベッド、洗面台、クローゼットが備えつけられており、2部屋で共有するトイレが設置されている。利用者は自宅から机や椅子、テレビ等を持ち込み、家族の写真や花を飾って居心地よく過ごせるよう工夫している。ベッドの位置や方向も利用者ごとに異なり、明るい日差しが差し込む窓辺にリクライニングチェアを置いている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の分かる力を職員が大切に考え、自立した生活が出来るように工夫している。不安や混乱・失敗を最小限に出来るように話し合いを行い、個々の環境づくりを行っている。	